

本書は、日本語教育における文法項目の導入の仕方について、筆者がこれまで考えてきたこと、実践してきたことにもとづいてまとめたものです。

本書は3部からなっています。

第1部は「文法項目を導入するときに考えるべきこと」で、初級、中級で問題となるトピックから10個を選んで、導入の際に考えるべきことについて述べています。

各セクションは、【こんな誤用があります】【誤用の理由を考える】【どう考えるか】【導入のポイントを考える】【より進んだ導入、研究のために】という5つの部分からなっています。

【こんな誤用があります】ではその項目に関する典型的な誤用例を挙げ、【誤用の理由を考える】ではその誤用の理由を考え、【どう考えるか】では日本語学的観点からも考察します。以上を背景知識とした上で、【導入のポイントを考える】では具体的にどのように考えて導入すればいいかについて述べています。最後の【より進んだ導入、研究のために】では教育志向の方にとっては授業の改善につながり、研究志向の方にとっては研究のテーマの発見につながるような情報を載せています。

第2部は「用語編」で、文法項目の導入に際して正確に理解しておいていただきたい用語について解説しています。

第3部は「発想編」で、学習者の目線に立った導入の仕方、授業を行う上で重要なポイント、研究のテーマを発見するためにはどうすればいいかといった問題についての筆者の考えを述べています。

本書は文法項目の導入について述べたものですが、狭義の文法の問題だけでなく、第二言語習得や社会言語学に関する内容についても紙幅が許す限り取り上げています。そこには、現在の日本社会において、日本語教育が果たすべき役割、日本語教育の中で文法教育が果たすべき役割について、読者のみなさんとともに考えていただきたいという希望が込められています。

本書が日本語教育の発展の一助となることを願っています。

2017年5月 庵 功雄

目次

まえがき iii

第1部 文法項目を導入するときを考えるべきこと

1 「他動詞」のいろいろ	2
～を, に, と～	
2 もう一步進んで考えてみると	10
～「に」と「で」～	
3 条件が4つあるって本当?	18
～と, ば, たら, なら～	
4 時の表し方のいろいろ	28
～まで/までに, あいだ/あいだに, うちに～	
5 逆接の表し方のいろいろ	36
～ても, のに, けど/が～	
6 人の思いはさまざま	44
～と思う～	
7 論文で大切なこと	54
～「と考えられる」と「と考えられている」～	
8 母語の影響を考えると	58
～に対して, にとって, について～	
9 それを教えてほしかった	64
～文脈指示のソとア～	
10 産出の難しさ	70
～結果残存のテイル形～	

第2部 用語編

1 品詞	82
------	----

2	活用	92
3	活用(形)に関わる用語 ～テ形, タ形～	102
4	文体とその関連概念 ～丁寧体, 普通体, 丁寧形, 普通形～	108
5	無標と有標	114
6	正用, 誤用, 非用 ～学習者言語についての見方～	118
7	肯定証拠と否定証拠 ～文法教育に必要なもの～	122

第3部 発想編

1	理解レベルと産出レベル	128
2	日本語とニホン語 ～母語話者の文法, 非母語話者の文法～	134
3	産出のための文法 ～「100%を目指さない文法」の重要性～	138
4	母語の知識を活かす コラム 言語の恣意性 147	142
5	「入れたのに入らない」 ～教える側の問題～	148
6	「台本」を考えよう	152
7	常に「説明」を考えよう	154

1

「他動詞」のいろいろ ～を, に, と～

こんな誤用があります

- ❶ × 昨日, デパートで田中さんを会いました。(👉に or と)
- ❷ × 洋子さんは浩さんを結婚しました。(👉と)

誤用の理由を考える

❶も❷も誤用ですが, なぜこうした誤用が起こるのでしょうか。

そこには母語転移が関わっていると考えられます。たとえば, ❶❷をそれぞれ英語で言うと, 次のようになります。

- ❶' I met Tanaka at a department store yesterday.
- ❷' Yoko married Hiroshi.

英語で動詞の直後に来る名詞(句)は直接目的語と呼ばれ, 日本語では「を」に対応することが多いため, ❶や❷のような誤用が起こるのだと考えられます。

どう考えるか

それでは, どうすれば❶や❷のような誤用が防げるのかを考えてみましょう。

■ 二項述語

まず, 次の例を見てください。

- ❸ コーヒーを飲む／パンを食べる／テレビを見る／花子を愛する
- ❹ 太郎に会う／巨人に勝つ／的に当たる／提案に賛成する／水に触る
- ❺ 太郎と会う／花子と結婚する／太郎とけんかする／正解と違う

3～5の動詞には共通点があります。それは、出来事を表すのに2つの要素が必要だということです。たとえば、「飲む」の場合、「私がコーヒーを飲む」のように、出来事を表すのに、「～(人)が」と「～(もの)を」という2つの要素が必要です。**45**の動詞も同様で、「勝つ」の場合は「～(人／チーム)が」と「～(人／チーム)に」が、「結婚する」の場合は「～(人)が」と「～(人)と」が必要といったことです。

これに対し、次の**67**では必要な要素は1つだけです。

6 子どもたちが遊んでいる。

7 コップが割れた。

この「～が」「～を」「～に」「～と」などは項(または、必須補語)と呼ばれる、文を作るために必要不可欠な要素です(庵 2012)。一方、**8**の「駅前で」(場所)、**9**の「日曜日に」(時)、**10**の「田中さんと」(共同行為者)などは副次補語と呼ばれ、省略しても文としては成り立ちます。

8 昨日、駅前で火事があった。 (○昨日、火事があった。)

9 私は日曜日にハイキングに行く。 (○私はハイキングに行く。)

10 先週、田中さんと映画を見た。 (○先週、映画を見た。)

次の文と比較してください。

11a. 昨日、山田さんとラーメンを食べた。

b.? 昨日、山田さんと食べた。 (「ラーメンを」は項／必須補語)

c. ○昨日、ラーメンを食べた。 (「山田さんと」は副次補語)

さて、「項」という用語を使うと、**3～5**の共通性は「項を2つ必要とする」と言うことができます。こうした述語を二項述語と言います。

この「二項述語」という言い方は「他動詞」と似ていますが、別の概念です。「他動詞」というのは、「二項述語」の一部(ただし、最も典型的なもの)で、日本語の場合、「～が、～を」を取り(=「～が、～を」のパターンで使われ)、直接受身になるものとされています。

2

もう一歩進んで考えてみると ～「に」と「で」～

こんな誤用があります

- ❶ × 私は横浜で住んでいます。(☞に)
- ❷ × 太郎は自分の部屋に勉強しています。(☞で)

誤用の理由を考える

❶❷は学習者によく見られる誤用ですが、このセクションでは、こうした場所を表す「に」と「で」の誤用を防ぐにはどのように考えればいいかについて考えてみたいと思います。

§1の二項述語は基本的にどのような言語にも見られる現象の例でしたが、「に」と「で」の区別を持たない言語はたくさんあります。たとえば、英語と中国語で❶と❷を表すとそれぞれ次のようになります。

- ❶' I live in Yokohama.
- ❷' Taro is studying in his room.
- ❶" 我住在横浜。
- ❷" 太郎在他的房间学习。

これらの例からわかるように、英語や中国語には「に」と「で」の区別は基本的に見られません。こうしたことから、「に」と「で」については、学習者の母語の知識を利用するのではなく、日本語の規則として考える必要があることがわかります。

どう考えるか

ここではまず、「に」と「で」に関する一般的な考え方を見ておきます。

■ 基本的な規則

「に」と「で」については、次のような規則が立てられることが多いです（たとえば、寺村 1982 参照）。

3a. 存在に関わる場所には「に」をつける。

b. 運動、出来事に関わる場所には「で」をつける。

この規則で問題がなければ誤用は起こらないはずですが、実際は、「に」と「で」は誤用が多い項目として知られています。では、**3**のどこに問題があるのでしょうか。

3に問題があるとすれば、その原因は「存在」「運動、出来事」がどういふものかが捉えにくいということにあると考えられます。そこで、**3**を少し変形して、**4**という有標―無標型の規則にしてみましょう。

4a. 「存在」に関わる場所には「に」をつける。

b. それ以外の場所には「で」をつける。

■ 「存在」とはどのようなものか

4は§1の**12**と同じタイプの規則なので、「存在」がどういふことなのかがわかれば、自動的に「に」と「で」が使い分けられることになります。この線に沿って、「存在」ということについて考えてみましょう。

4aの「存在」の典型は「いる」と「ある」ですが、それ以外にどのようなものがあるかをコーパスで調べてみましょう¹。

¹ ここでは、「存在」について広く論じている張 (2006) に従って、「ている」と「てある」を「存在」に関わるものと考えています。

3

条件が4つあるって本当? ～と、ば、たら、なら～

こんな誤用があります

顕著な誤用はありません。

どう考えるか

■ 条件とは何か

「条件」の典型は「仮定条件」です。仮定条件を表す場合は「もし」が使えます。次の①～③は「もし」が使えるので仮定条件を表します。

- ① もし明日雨が降たら、出かけない。
- ② もしこの法案が可決されば、国民生活に大きな影響が出る。
- ③ もし海外で結婚式をするなら、私はハワイを選ぶだろう。

仮定条件はこれから行われることを表すので、主節の述語は非過去【⇒第2部§3】（＋モダリティ形式）になります。

一方、次の文は「もし」が使えないので、仮定条件ではありません。④aは常にその内容が成り立つことを表す恒常条件を表しています。

- ④a. ○水は100度になると、沸騰する。
- b.? 水はもし100度になると、沸騰する。

これに対し、「と、たら」には主節の述語がタ形になるものがあります。

- ⑤a. 6月になると、急に暑くなった。
- b. 窓を開けたら、富士山が見えた。

これらは「事実」を表しているのです、少なくとも典型的な「条件」とは言えません。

このセクションでは、以上のような「条件」の表し方として「と、ば、たら、なら」の4形式を「初級で」導入する必要があるかについて考えます。

■ 誤用は少ない

「条件」を表すとされる「と、ば、たら、なら」ですが、重大な誤用はないと考えられます。確かに、**6**のような誤用はコーパスで確認できますが、「タグ付きKYコーパス」で検索した限り、「ば」の誤用は全体で3例、「たら」は0例、「なら」は下記の1例（いずれも、タグ付きKYコーパスで「誤用」のタグがつけられたものから目視で確認）ということで、「条件」の用法については、「誤用」と言えるものは極めて少ないと考えられます。

6 T: あー、病院へ行くには、〈うん〉健康保険証、〈うん〉健康保険証
があればいいです

S: うん、あー、それだけですか

T: ええ

S: たとえば、学生証書ならいりませんか

T: ううん、それはいりません (KYコーパス_CIH01)

そうだとすると、この4形式の「使い分け」に多くの時間を割くことには疑問の余地があると考えられます。

■ コーパスでの分布

4形式の違いを見る上で重要なのはコーパスを調べることです。ここでは話しことばとして名大会話コーパス（「名大」）、書きことばとして現代日本語書き言葉均衡コーパス（「BCCWJ」）を用いて検索しました¹。

1 検索条件は次の通りです。名大の場合、「キー」は共通で、「キーから1語」は「と、ば、たら、なら」の順に次の通りです（BCCWJは長単位検索、名大は短単位検索）。

キー 指定せず

キーから1語 語彙素=と&品詞=接続助詞/語彙素=ば&品詞=接続助詞/語彙素=た&活用形=假定形/語彙素=だ&活用形=假定形

BCCWJの場合、「と」と「ば」が動詞だけで10万件を超えてしまうため、検索対象を「書籍」に限定しました。その上で、「キー」の品詞を動詞、形容詞、形状詞、名詞、代名詞、助動詞、助詞に限定し